

財 団 報

2016. 9 No. 9

目 次

ご挨拶 理事長 児玉 龍彦	1
I 平成 27 年度事業報告	3
1. 年間の経緯	3
2. 事業について	5
1) 助成事業 i) 研究助成金、ii) 海外留学補助金	5
2) 研究報告会	8
3) 表彰（最優秀理事長賞、竹中奨励賞、優秀発表賞）	9
4) 講演（特別講演、竹中奨励賞受賞講演）	10
5) 交流会	11
6) 第 45 回助成研究報告集	11
3. 会計報告	12
II 平成 27 年度最優秀理事長賞・竹中奨励賞・優秀発表賞受賞者、研究助成金・海外留学補助金受領者からのお便り ..	13
最優秀理事長賞 有本 博一、古屋敷 智之	15
竹中奨励賞 宮成 悠介	17
優秀発表賞 有本 博一、津田 誠、宮成悠介	18
研究助成金 小川 美香子、神吉 智丈、車 兪澈、佐々木 拓哉、	19
竹本（木村） さやか、中谷 真子、難波 卓司、福中 彩子、 藤永 由佳子	
海外留学補助金 板倉 千絵子、井手 盛子、笠原 和之、五味 正憲、佐藤 道大、	28
塚田 実郎、沼田 倫征、前田 良太、見前 隆洋、山内 隆好	
III 財団概要	38
1. 沿革	38
2. 目的	38
3. 事業	38
4. 事業内容	38
5. 組織と人員	39
6. 役員・評議員・職員名簿	40
7. ご退任役員	41
設立趣意書	41
IV ご寄付の報告とお願い	42
平成 27 年度の財団トピックス	42
編集後記	43

公益財団法人アステラス病態代謝研究会

注記

- ◆ この財団報は、平成28年（2016年）6月4日開催の平成28年度第1回定例理事会を経て、6月22日開催の平成28年度定時評議員会で承認された「平成27年度事業報告および収支報告」に基づいて、当財団の平成27年度（2015年4月1日～2016年3月31日）の事業内容を取りまとめ、発行するものです。
- ◆ 本報告書・助成対象一覧の所属機関は、研究助成金・海外留学補助金交付時のものであり、それ以降の変更は反映させておりません。

新しい栄養学のすすめ

児玉 龍彦

公益財団法人 アステラス病態代謝研究会 理事長
 東京大学 アイソトープ総合センター センター長
 東京大学 先端科学技術研究センター システム生物医学 教授



糖質、脂質、たんぱく質はヒトの3大栄養素とされる。20世紀の栄養学では、糖尿病は糖質、高脂血症は脂質、飢餓にはアミノ酸という考え方であった。糖尿病へのインスリン治療と、インスリン分泌をうながす様々な経口薬の開発や、スタチンによるコレステロール低下での予防が20世紀医学の大きな成果であった(文献1)。ところが、20世紀終わり頃から、飽食の時代が世界を覆うようになり、メタボリックシンドロームや、非アルコール性脂肪肝、また骨粗鬆症や、認知症発症へ、インスリン抵抗性や肥満、栄養過剰に関わることが懸念され始め治療法の再検討が始まった(文献2)。

21世紀始め、ボストンの循環器医アトキンスの提唱したローカーボハイドレート(略してロカボ)といわれる低糖質ダイエットは、従来のインスリン分泌促進療法に対し、インスリン抵抗性の肥満患者では、糖質を強力に制限すれば、脂質もたんぱく質も取り放題でよく、アルコールもとっていいという魅力的なものであった(文献3)。実際の実践の効果は大きく、肥満者の体重減少に効果的な場合も多くアメリカでは一大ブームになった。一方、循環器や糖尿病の学会の関係者は当初、ロカボには否定的な見方も多かった(文献4)。低糖質で脂質の β 酸化を栄養分の中心とすると、上昇してくるケトン体を糖尿病のケトアシドーシスの危険性とかからめて多くの論争を巻き起こした。

一方で、がん細胞の代謝から、ワーバグ効果という嫌氣的解糖系に依存するがん細胞の栄養学が注目されてきた。がん細胞

は、ATP産生に効率のいいミトコンドリアにおけるTCAサイクルや電子伝達系の好氣的な代謝よりも、グルコースからピルビン酸までの嫌氣的な代謝に依存し、栄養分の消費の多い割にエネルギー効率は極めて悪く、悪液質(カエキシー)という低栄養状態が引き起こされる。がん細胞がグルコースを過剰に使うことを利用して、アイソトープ標識グルコースを用いたPETイメージングががん診断として地歩を確立し、医学界のコンセンサスとなった。がん細胞ではさらにグルタミンへの依存性が強いことが明らかになった(文献5)。歴史的には、悪液質のとき的高中性脂肪症を引き起こすサイトカインとして発見されたカケチンが実はTNF α と同一であり、炎症と代謝変動のつながりを解き明かす第一歩になっている(文献6)。

がん細胞では糖質、脂質、アミノ酸代謝が絡みあって異常となっている。そのメカニズムは、アセチルCoAを中心に理解しなおす新しい栄養学を生み出した。ミトコンドリアにおいて、脂質も糖質もアミノ酸からの中間代謝産物は、アセチルCoAへと代謝され、逆にアセチルCoAから糖新生、脂肪酸合成、アミノ酸合成が行われる。一方、肝臓では、飢餓時には、アセチルCoAが脳血液関門を通過できるケトン体として代謝されグルコースの不足を補う重要な栄養源として使われるということである(文献7)。メカニズムは十分明らかとはいえないが、ケトン体は小児てんかんの治療食としての有効性も検証され、ケトン体論争も転換点を迎えている。

飢餓のときのシグナルを担うPPARアルファという核内受容体のモディファイヤーは、脂肪酸の β 酸化をうながし、長寿のシグナルといわれるFGF21の血液中レベルが上昇し、肝臓での糖の消費が抑えられ、ケトン体の産生がうながされる。だが、肥満と高血糖のある条件のもとでは肝臓でのグルコースからの脂肪酸の合成を促して、効果が相殺されてしまう（文献8）。

最近、インスリン作用の増強によらず、血液中のグルコースを尿中に排泄してネガティブエナジーバランスをすすめる新しい高血糖治療薬、SGLT2阻害剤が開発され、インスリン抵抗性の肥満に顕著な効果がみられる。インスリンが同化のホルモンであり、グルコースからのグリコーゲン合成や、脂肪酸からの中性脂肪合成を促し、肥満を起こしやすいのと比べると、治療法として新しい展開が生まれつつある。だが、SGLT2阻害剤でも脂質からの β 酸化がケトン体上昇をおこす（文献9）。

新しい栄養学、つまり、糖質、脂質、アミノ酸の統合的な測定と、相互転換のメカニズムからの治療法の検討は、新しい治療の可能性をうみだす。低糖質ダイエットや、PPARアルファで脂質を燃やしSGLT2阻害剤で糖質を低下する治療では、筋肉のたんぱく質が急激に消費されるようなサルコペニアを考え、グルタミンの摂取が重要となるだろう。

核内のヒストンのアセチル化やメチル化、脱アセチル化と脱メチル化がエピゲノムを制御し、増殖か、分裂か、をきめる因子である。栄養と生殖にも大きく関わり、様々な実験動物では、飢餓のシグナルがあるほうが長寿をもたらすことが注目されている（文献10）。アステラス病態代謝研究会では、新しい栄養学の展開をうけたゲノム、エピゲノム、メタボロームを基礎にした肥満や脂肪肝、認知症や骨粗鬆症などへの新たな治療を生みだす研究を奨励したいと考えている。

文献

- 1) A century of cholesterol and coronaries: from plaques to genes to statins.
Goldstein JL, Brown MS. Cell. 2015 Mar 26;161(1):161-72.
- 2) Zeyda M, Stulnig TM. Obesity, inflammation, and insulin resistance – a mini-review. Gerontology. 2009;55:379–86.
- 3) ロバート・アトキンス『アトキンス式低炭水化物ダイエット』河出書房新社、2005年6月。
- 4) A critical review of low-carbohydrate diets in people with Type 2 diabetes.
van Wyk HJ, Davis RE, Davies JS. Diabet Med. 2016 Feb;33(2):148-57.
- 5) Non-invasive metabolic imaging of brain tumours in the era of precision medicine.
Kim MM, Parolia A, Dunphy MP, Venneti S. Nat Rev Clin Oncol. 2016 Jul 19.
- 6) The common mediator of shock, cachexia, and tumor necrosis.
Beutler B, Cerami A. Adv Immunol. 1988;42:213-31.
- 7) Acetyl coenzyme A: a central metabolite and second messenger.
Pietrocola F, Galluzzi L, Bravo-San Pedro JM, Madeo F, Kroemer G. Cell Metab. 2015 Jun 2;21(6):805-21.
- 8) Transcriptome Analysis of K-877 (a Novel Selective PPAR α Modulator (SPPARM α))-Regulated Genes in Primary Human Hepatocytes and the Mouse Liver.
Raza-Iqbal S, Tanaka T, Anai M, Inagaki T, Matsumura Y, Ikeda K, Taguchi A, Gonzalez FJ, Sakai J, Kodama T. J Atheroscler Thromb. 2015 Aug 26;22(8):754-72.
- 9) SGLT2 Inhibitors May Predispose to Ketoacidosis.
Taylor SI, Blau JE, Rother KI. J Clin Endocrinol Metab. 2015 Aug;100(8):2849-52.
- 10) Starvation protects germline stem cells and extends reproductive longevity in *C. elegans*.
Angelo G, Van Gilst MR. Science. 2009 Nov 13;326(5955):954-8.

I 平成27年度事業報告

1 年間の経緯

平成27年（2015年）

- 4月 1日 平成27年度研究助成金・海外留学補助金の応募要領公開（財団ホームページ）
（募集期間：平成27年4月 1日～6月15日）
- 6月 6日 第1回定例理事会
第1号議案：平成26年度事業報告、収支報告の件
⇒評議員会への上程を承諾
第2号議案：定款改訂の件
⇒定時評議員会への上程を承諾
第3号議案：新理事推薦の件
⇒新理事候補として安川健司氏を定時評議員会に推薦することを承諾
第4号議案：平成27年度選考委員選任の件
⇒選考委員候補者全員を承認
第5号議案：規程類改訂の件
⇒8件の規程類の改訂を承認し、2件の規程類の改定案を定時評議員会に
上程することを承諾
第6号議案：平成27年度定時評議員会招集の件 ⇒ 原案通り承認
第7号議案：理事長、専務理事 業務執行報告の件 ⇒ 承認
- 6月15日 研究助成金、海外留学補助金申請締切
⇒応募件数：研究助成金808件、海外留学補助金215件
- 6月22日 定時評議員会
第1号議案：平成26年度事業報告、収支報告の件⇒原案通り承認
第2号議案：定款改訂の件⇒原案通り承認
第3号議案：後任評議員選任の件
⇒相川直樹前評議員の後任として相澤好治氏を選任
第4号議案：新理事選任の件
⇒安川健司氏を新任理事として選任
第5号議案：規程類改訂の件⇒原案通り承認
第6号議案：平成27年度第1回定例理事会報告の件
第7号議案：平成26年度報告を聞いての今後の財団活動の方向性について
⇒今後の助成活動の方向性についての意見交換
- 8月1日～31日 選考委員による研究助成金・海外留学補助金申請書の個別評価
- 9月15日 財団報No.8（平成26年度財団活動のまとめ）発行
- 10月17日 選考委員会
第1号議案：平成27年度研究助成金および海外留学補助金交付対象者・交付
総額の件

⇒平成27年度研究助成金交付対象候補者50名、交付総額1億円および
海外留学補助金一次選考通過候補者10名、
交付総額2,000万円～4,000万円を決定し、理事会へ答申。

第2回定例理事会

第1号議案：平成27年度研究助成金および海外留学補助金交付対象者・交付
総額の件

⇒選考委員会の提案を承認

平成28年（2016年）

2月6日

第1回学術委員会

第1号議案：平成28年度研究助成事業の実施要領の件

⇒原案通り理事会に答申することを承諾

第2号議案：平成28年度海外留学助成事業の実施要領の件

⇒応募時に為替レートを明示することを条件に、その他は原案通り
理事会に答申することを承諾

第3号議案：新学術委員候補者推薦の件

⇒候補者5名を理事会に推薦することを承諾

第3回定例理事会

第1号議案：平成27年度海外留学補助金交付対象者・交付総額の件

⇒原案通り承認

第2号議案：平成27年度事業報告・仮収支報告の件⇒原案通り承認

第3号議案：平成28年度事業計画・収支予算書の件⇒原案通り承認

第4号議案：平成28年度研究助成事業の実施要領の件

⇒学術委員会からの答申を承認

第5号議案：平成28年度海外留学助成事業の実施要領の件

⇒学術委員会からの答申を承認

第6号議案：平成28年度研究報告会開催の件⇒原案通り承認

第7号議案：新学術委員候補者の件

⇒学術委員会からの答申を承認

第8号議案：マイナンバー制度への対応の件

⇒外部委託方針と規程類の改訂・新設について原案通り承認

第9号議案：理事長、専務理事の業務執行報告の件⇒承諾

3月11日

臨時理事会（書面）

第1号議案：辞退者2名への平成27年度海外留学補助金（合計600万円）の
交付を中止する件

⇒全会一致で原案通り承認

第2号議案：次点候補者2名に、平成27年度海外留学補助金（合計485万円）
を交付する件

⇒全会一致で原案通り承認

3月31日

第45回助成研究報告集発行

2 事業について

1) 助成事業

i) 研究助成金

テーマを「疾患の解明と画期的治療法の開発に資する研究」であり、「独創性、先駆性が高い萌芽的研究提案」、あるいは「臨床的意義の高い成果が期待できる研究提案」と定め、平成27年4月1日～6月15日の期間に募集を実施しました。808名（内、女性138名）の応募があり、各選考委員による個別評価を経て、平成27年10月17日開催の選考委員会にて交付対象候補者が選出され、同日開催された理事会で交付対象者50名（内、女性12名）が決定されました。本決定に基づき、1件200万円として総額1億円を11月から順次交付しました。

ii) 海外留学補助金

テーマを「生命科学領域（有機合成化学、天然物化学を含む。）」とし、「平成27年4月から平成28年3月の期間に留学を開始し、初めて1年以上留学する研究者」を対象として平成27年4月1日～6月15日の期間に募集を実施しました。2回目以降の留学でも応募可能としました。215名（内、女性34名）の応募があり、平成27年10月17日開催の選考委員会で一次選考通過候補者10名が選出され、同日開催された理事会で一次選考通過者が決定されました。一次選考通過者に対して二次選考（面接）を実施し、面接の結果と算定ルールに基づいた交付額を平成28年2月6日開催の第3回定例理事会に報告しました。理事会において面接を実施した10名全員を二次選考合格とし、算定ルール通りの海外留学補助金（総額2,740万円）を交付することが承認されました。

なお、その後に辞退等が2件あったため、次点候補者2名の面接を実施し、臨時理事会（書面開催）の承認を得て、この2名に海外留学補助金を交付しました。

最終的には、平成27年度海外留学補助金は、総額2,625万円を10名（内、女性2名）に交付しました。

平成27年度研究助成金・海外留学補助金公募および交付実数

項 目	申請者数 (女性)	交付対象者数 (女性)	交付金額
研究助成金	808名 (138名)	50名 (12名)	1億円 (200万円/件×50名)
海外留学補助金	215名 (34名)	10名 (2名)	2,625万円
総 計	1023名 (172名)	60名 (14名)	1億2,625万円

平成27年度（第47回）研究助成金交付対象者一覧

（五十音順・敬称略）

No.	氏 名	所属機関（交付時）	研究テーマ
1	芦田 浩	東京大学医科学研究所 細菌感染生物学社会連携研究部門	病原細菌による宿主自然免疫応答抑制機構の解明
2	安部 健太郎	京都大学大学院 医学研究科 生体情報学講座	成体脳内における遺伝子転写制御因子の機能解明
3	池田 祐一	東京大学医学部附属病院 循環器内科 ユビキタス予防医学講座	常在性腸内細菌叢の産生する生理活性代謝産物の探索
4	井上 陽介	がん研究会 有明病院 消化器外科 肝胆膵外科	肺癌予後向上のための多角的外科アプローチ
5	大栗 博毅	東京農工大学大学院 工学研究科 応用分子化学部門	骨格多様化合成による医薬リード創製
6	大野 浩章	京都大学大学院 薬学研究科 薬品有機製造学分野	連続反応によるアルカロイド骨格の一挙構築と創薬展開
7	小川 美香子	北海道大学大学院 薬学研究科 生体分析化学研究室	がんを特異的に「見る」「操る」システムの構築
8	神吉 智丈	新潟大学大学院 医歯学総合研究科 機能制御学分野	Mitophagyマウス樹立と疾患研究への応用
9	木田 泰之	産業技術総合研究所 創薬基盤研究部門	肺癌腫瘍の Organ-on-a-chip 作製
10	KIM MINSOO	京都大学 白眉センター	腸管細菌がハイジャックする宿主免疫応答
11	國澤 純	医薬基盤研究所 ワクチンマテリアルプロジェクト	食事性脂質を起点とする脂質代謝と免疫制御・疾患
12	車 愈澈	東京工業大学 地球生命研究所	試験管内タンパク質合成系による新規創薬基盤の構築
13	黒川 洵子	東京医科歯科大学難治疾患研究所 生体情報薬理学分野	膜輸送分子複合体による心筋興奮終焉期の統合的制御
14	後藤 義幸	千葉大学真菌医学研究センター 感染免疫分野	自然リンパ球による腸管上皮幹細胞の分化・機能制御
15	佐々木 拓哉	東京大学大学院 薬学系研究科 薬品作用学教室	神経網羅解析法で迫る全身ストレス応答の実態解明
16	鈴木 一博	大阪大学免疫学フロンティア研究センター 免疫応答ダイナミクス研究室	交感神経による適応免疫応答の概日リズム制御
17	竹本(木村)さやか	名古屋大学 環境医学研究所 神経系1分野	カルシウム依存的リン酸化経路による新規情動制御機構
18	田中 洋介	東京大学医科学研究所 細胞療法分野	造血幹細胞の非対称分裂とMidbodyの動態
19	田中 芳彦	福岡歯科大学 口腔歯学部 機能生物化学講座 感染生物学分野	アレルギー応答を司る新規制御因子の同定と機能解析
20	坪内 知美	自然科学研究機構 基礎生物学研究所 細胞生物学領域 幹細胞生物学研究室	エピジェネティックな可塑性とがん
21	富田 耕造	産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 RNAプロセッシング研究特別チーム	転移RNAメチル化とがん転移の分子基盤研究
22	中川 勇人	東京大学 医学部 消化器内科	新規肝外胆管癌マウスモデルを用いた分子発生病理機序解明
23	中谷 真子	福井大学 医学部医学科 生命情報医科学講座 薬理学領域	CDX2発現低下による炎症性腸疾患の発症機序の解明
24	難波 卓司	高知大学 教育研究部総合科学系 複合領域科学部門	神経細胞での小胞体-ミトコンドリア情報交換機構の解明
25	西川 恵三	大阪大学免疫学フロンティア研究センター 免疫細胞生物学	破骨細胞のエピジェネティクスの研究と創薬への応用
26	根本 哲宏	千葉大学大学院 薬学研究科 薬化学研究室	3,4位中環縮環インドール類の効率合成法の開発
27	野田 秀俊	微生物化学研究会 微生物化学研究所 有機合成研究部	触媒的不斉合成が拓くβ-ペプチド含有創薬の新時代
28	橋本 大吾	北海道大学 医学部附属病院 血液内科学	パネト細胞増殖因子による消化管エコロジーの保全
29	長谷 耕二	慶應義塾大学 薬学部 生化学講座	腸内代謝システムによる免疫制御機構の解明
30	花田 俊勝	大分大学 医学部医学科 細胞生物学講座	RNA代謝機構が関与する病態の分子機構解明
31	原 博満	鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 感染防御学講座免疫学分野	結核菌表層の病原性脂質による自然免疫応答の制御機構
32	日浅 未来	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 生体膜生化学研究室	脳内D-セリンの小胞内蓄積機構と生合成連関の解明

33	東島 眞一	自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター 神経分化研究部門	脊髄内リズム運動生成回路の発生および機能解析
34	久本 直毅	名古屋大学大学院 理学研究科生命理学専攻 生体応答論講座	神経切断が誘導する一過的異分化による軸索再生制御
35	福中 彩子	順天堂大学大学院 医学研究科 代謝内分泌内科	重鉛トランスポーターZIP13の脂肪褐色化での役割
36	藤永 由佳子	金沢大学 医薬保健研究域 医学類細菌学	乳児便の病原細菌検出による乳児突然死リスク因子解析
37	坊内 良太郎	東京医科歯科大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌・代謝内科	非肥満者における内臓脂肪蓄積評価の意義
38	前川 洋一	岐阜大学大学院 医学系研究科 寄生虫学・感染学分野	マラリアワクチン開発に向けた肝臓内免疫応答の解明
39	増田 茂夫	大阪大学大学院 医学系研究科 心臓血管外科	iPS臨床における造腫瘍性回避技術の新規開発
40	松岡 悠美	千葉大学大学院 医学研究科 皮膚科学	脂質代謝依存ACCI誘導性Th17の乾癬での役割
41	マルチーノ・ミカエル	大阪大学免疫学フロンティア研究センター 自然免疫学	組織再生における免疫制御の解明と再生医療への応用
42	水関 健司	大阪市立大学大学院 医学研究科 生理学第二講座（細胞情報学）	海馬体介在細胞の生体内機能解析
43	宮崎 正輝	京都大学 再生医科学研究所 再生免疫学分野	Id2/Id3による転写制御とアレルギー炎症
44	宮地 孝明	岡山大学 自然生命科学研究支援センター ゲノム・プロテオーム解析部門	VNUT特異的阻害剤の開発とその薬学的応用
45	柳沢 裕美	筑波大学 生命領域学際研究センター	大動脈瘤の新たな治療標的の探索
46	脇本 敏幸	北海道大学大学院 薬学研究院 天然物化学研究室	フラン脂肪酸の物性および抗炎症作用機序の解析
47	和田 泰三	金沢大学大学院 医薬保健学総合研究科 小児科	便中蛋白による小児消化管アレルギーの非侵襲的評価
48	渡邊 すぎ子	大阪大学 微生物病研究所 環境応答研究部門 遺伝子生物学分野	テロメア構成タンパク質修飾とエピゲノム異常の関連性
49	渡部 昌	北海道大学大学院 医学研究科 生化学講座医化学分野	パーキンの網羅的基質同定によるパーキンソン病の解明
50	渡邊 力也	東京大学大学院 工学系研究科応用化学専攻	膜輸送体のための先端計測技術の開発

平成27年度（第47回）海外留学補助金交付対象者一覧

（五十音順・敬称略）

No.	氏 名	所属機関（申請時）	研究テーマ	留学先	交付金額 （万円）
1	板倉 千絵子	東京医科歯科大学大学院 医学部医歯学総合研究科 細胞生理学分野	オートファジーにおける Myosin VIの役割	ケンブリッジ大学 臨床生物学分野	200
2	井手 盛子	大阪大学大学院 医学系研究科 先進心血管治療学寄附講座	小児心疾患領域の心臓MRIに よる病態病理評価法確立	トロント小児病院	285
3	笠原 和之	神戸大学大学院 医学研究科 循環器内科学分野	腸内細菌叢がメタボリック症 候群に与える影響の解明	ウィスコンシン大学マディソン校 細菌学分野	400
4	五味 正憲	小倉記念病院 脳卒中センター 脳神経外科	脳梗塞の分子機構解明とその 制御による治療法の開発	マサチューセッツ総合病院 脳保護研究室	200
5	佐藤 道大	静岡県立大学 薬学部 生薬天然物化学分野	[4+2]環化付加酵素を用いた非 天然型天然物の創製	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	200
6	塚田 実郎	慶應義塾大学 医学部医学科	血管内皮細胞を生着させた BioStentの応用	アーヘン工科大学 応用医工学部	340
7	沼田 倫征	産業技術総合研究所	遺伝子の発現を制御するRNA 分子装置の作動原理解明	国立心肺血液研究所 アメリカ国立衛生研究所	200
8	前田 良太	先端医療振興財団 先端医療センター医薬品開発研究部門	骨粗鬆症の発症にかかわる糖 鎖修飾酵素の結晶構造解析	コペンハーゲン大学 糖鎖解析センター	400
9	見前 隆洋	広島大原爆放射線医科学研究所 放射線災 害医療研究センター 腫瘍外科研究分野	脂肪肉腫における新規治療標 的分子同定および機能解析	メモリアル スローン ケタリング がん センター 外科・胃・混合腫瘍研究室	200
10	山内 隆好	九州大学大学院 医学系学府 分子医科学分野	キメラ形成能を有する霊長類 多能性幹細胞の樹立と応用	ソーック研究所	200

2) 研究報告会

平成26年度(第46回)研究助成金受領者による研究報告会を、平成27年10月17日東京・丸の内 日本工業倶楽部にて開催しました。総受領者数は50名、当日の出席者は46名、欠席は4名でした。欠席理由は1名が海外学会での発表のため、2名が出産のため、1名がご親族のご不幸のためでした。出産のため以外の欠席者2名からは当日発表内容を事前に報告書として提出頂き、出産のための欠席者については、復職後に、平成28年度の研究報告会での発表の可能性も含めて検討することになりました。

研究報告会風景



第46回 研究報告会	
※日 時：2015年10月17日 (土) 11:00～17:30	
※場 所：日本工業倶楽部 東京都千代田区丸の内1-4-6 第3大会場 (10F) 202号～171号	
報告受付：2階 (開場 10:00～)	
1. 研究発表 第1大会場 11:00～14:41	
第2大会場 14:41～15:12	
第3大会場 15:12～15:43	
2. 質疑応答 第1大会場 12:40～13:00	
第2大会場 第1大会場 13:00～13:10	
第3大会場 第1大会場 14:30～14:41	
※報告書および口頭発表資料の提出※	
1. 申請書(研究計画)と、報告書(研究内容)と研究計画(研究内容)の報告書 が提出されます。	
2. 報告書と研究計画は、提出後、1週間程度を要して提出されます。	
3. 報告書と研究計画は、提出後、1週間程度を要して提出されます。	
4. 報告書と研究計画は、提出後、1週間程度を要して提出されます。	
公益財団法人アステラス創薬代議研究会	

研究報告会プログラム

3) 表彰

i) 最優秀理事長賞

平成27年10月17日開催の研究報告会で優れた研究成果を発表した研究者2名（口頭発表を聞いた選考委員による投票により、各発表会場から1名ずつ選ばれる）に最優秀理事長賞として表彰状と副賞（1件100万円、総額200万円）を後日授与しました。

最優秀理事長賞2名（1件100万円）

（五十音順・敬称略）

氏名	所属機関（受賞時）	研究テーマ
有本 博一	東北大学大学院 生命科学研究科 分子情報化学分野	個体の寿命を制御する内因性分子の研究
古屋敷 智之	神戸大学大学院 医学研究科 薬理学分野	ストレスにおける神経グリア相互作用の分子実体の解明



有本 博一 先生



古屋敷 智之 先生

ii) 竹中奨励賞

平成27年10月17日開催の研究報告会での発表者の中から、今後の活躍が期待される若手研究者1名（口頭発表を聞いた選考委員の投票により決定）に竹中奨励賞として表彰状と副賞（50万円）を後日授与しました。

竹中奨励賞（1名）

氏名	所属機関（受賞時）	研究テーマ
宮成 悠介	岡崎統合バイオサイエンスセンター 核内ゲノム動態研究部門	核内クロマチン動態を制御する因子の同定



宮成 悠介 先生

iii) 優秀発表賞

平成27年10月17日開催の研究報告会での、研究成果発表者の相互投票をもとに担当選考委員による推薦、選考委員長と学術委員会長による確認を経て、すぐれた研究発表3件を選び、当日発表しました。表彰状を後日お届けしました。

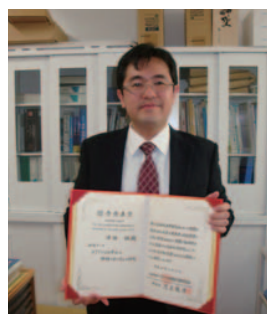
優秀発表賞（3名）

（五十音順・敬称略）

氏名	所属機関（受賞時）	研究テーマ
有本 博一	東北大学大学院 生命科学研究科 分子情報化学分野	個体の寿命を制御する内因性分子の研究
津田 誠	九州大学大学院 薬学研究院 ライフイノベーション分野	ATPによる痒みの神経メカニズムの研究
宮成 悠介	岡崎統合バイオサイエンスセンター 核内ゲノム動態研究部門	核内クロマチン動態を制御する因子の同定



有本 博一 先生



津田 誠 先生



宮成 悠介 先生

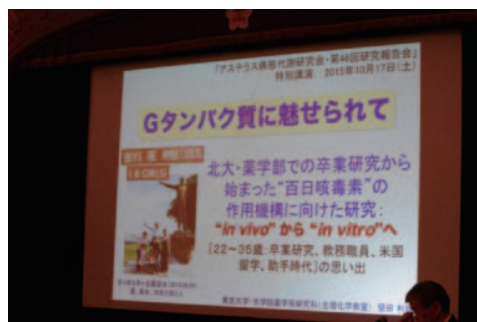
4) 講演

i) 特別講演

研究報告会では毎回、昼食後の時間帯に当財団役員による特別講演を行ってまいりました。今回は、当財団理事である東京大学大学院 薬学系研究科 堅田利明 教授による特別講演「Gタンパク質に魅せられて」を実施いたしました。研究報告会にご出席の多くの研究者がご聴講くださいました。



ご講演中の堅田利明先生



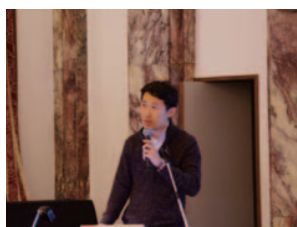
ご講演タイトル

ii) 竹中奨励賞受賞講演

研究報告会において、特別講演に引き続き、平成26年度竹中奨励賞受賞者である大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 丸山 健太 先生による受賞講演会を行いました。受賞対象となったご研究について、その後の進展を含めてご紹介いただきました。質疑応答ののち、研究会にご出席の多くの研究者からの盛大な祝福の拍手により、その栄誉を称えました。なお、本賞副賞の資金をご寄附くださった竹中登一氏もこの講演会に参加してくださいました。



前年度の授与の様様



ご講演される丸山健太先生



5) 交流会

研究報告会後に交流会を開催し、研究発表者、財団役員らが一同に会し、発表内容に関する議論や日本の科学技術研究の方向性など、色々な話題で情報交換していただきました。最後に、優秀発表賞受賞者を発表し、受賞者にはご挨拶を頂きました。会場からの盛大な拍手をもってその栄誉を称えました。



優秀発表賞受賞者を発表される門脇選考委員長



優秀発表賞を受賞されたお二人（中央）。左は児玉理事長

6) 第45回助成研究報告集

平成25年度（第45回）研究助成金を受けて実施された研究をまとめた報告集「第45回助成研究報告集」を、平成28年4月1日に当財団ホームページ上に公開しました。

この報告集は平成25年度に研究助成を受けられた方々から、平成27年12月までにご報告いただいた研究成果をまとめたものです。知的財産権などを考慮して、発行をこの時期まで遅らせています

なお、平成19年度 第39回以降の研究報告集は、当財団ホームページの「その他」→「刊行物」サイトにて電子ブック形式で公開しています。下記のURLよりアクセスしてみてください。

<http://www.astellas.com/jp/byoutai/index.html>



3 会計報告（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

1) 貸借対照表

(単価：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	18,154,981	16,413,822	1,741,159
流動資産合計	18,154,981	16,413,822	1,741,159
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	2,977,453,601	3,316,425,236	△338,971,635
(2) 特定資産			
1) 研究助成資金	543,548,828	593,528,828	△49,980,000
2) 竹中奨励賞資金	8,006,226	8,506,226	△500,000
3) 公益目的事業資金	388,489,292	388,089,292	400,000
4) 法人会計資金	10,000,000	10,000,000	0
特定資産合計	950,044,346	1,000,124,346	△50,080,000
(3) その他固定資産			
什器備品	8,330,175	7,760,745	569,430
減価償却累計額	△4,466,494	△2,890,405	△1,576,089
その他固定資産合計	3,863,681	4,870,340	△1,006,659
固定資産合計	3,931,361,628	4,321,419,922	△390,058,294
資産合計	3,949,516,609	4,337,833,744	△388,317,135
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	20,115	46,001	△25,886
流動負債合計	20,115	46,001	△25,886
負債合計	20,115	46,001	△25,886
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	1,622,997,949	1,884,879,584	△261,881,635
(うち基本財産への充当額)	672,953,603	884,755,238	△211,801,635
(うち特定資産への充当額)	950,044,346	1,000,124,346	△50,080,000
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	2,326,498,545	2,452,908,159	△126,409,614
正味財産合計	2,304,499,998	2,431,669,998	△127,170,000
負債及び正味財産合計	3,949,496,494	4,337,787,743	△388,291,249
	3,949,516,609	4,337,833,744	△388,317,135

2) 正味財産増減計算書

(単価：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
経常収益計	170,142,359	152,642,429	17,499,930
(2) 経常費用			
事業費	159,176,326	152,454,849	6,721,477
管理費	10,205,647	11,218,842	△1,013,195
経常費用計	169,381,973	163,673,691	5,708,282
評価損益等調整前当期経常増減額	760,386	△11,031,262	11,791,648
基本財産評価損益等	△127,170,000	200,745,000	△327,915,000
基本財産評価損益等	△127,170,000	200,745,000	△327,915,000
評価損益等計	△127,170,000	200,745,000	△327,915,000
当期経常増減額	△126,409,614	189,713,738	△316,123,352
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
雑収益	0	323,635	△323,635
経常外収益計	0	323,635	△323,635
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	323,635	△323,635
当期一般正味財産増減額	△126,409,614	190,037,373	△316,446,987
一般正味財産期首残高	2,452,908,159	2,262,870,786	190,037,373
一般正味財産期末残高	2,326,498,545	2,452,908,159	△126,409,614
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	90,020,000	90,020,000	0
基本財産運用益	14,389,920	12,591,180	1,798,740
特定資産運用益	1,865,455	2,161,948	△296,493
基本財産評価益	△211,801,635	334,340,798	△546,142,433
一般正味財産への振替額	△156,355,375	△138,133,906	△18,221,469
雑損失	0	△323,635	323,635
当期指定正味財産増減額	△261,881,635	300,656,385	△562,538,020
指定正味財産期首残高	1,884,879,584	1,584,223,199	300,656,385
指定正味財産期末残高	1,622,997,949	1,884,879,584	△261,881,635
III 正味財産期末残高	3,949,496,494	4,337,787,743	△388,291,249